

第6学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「使える言葉にするために」 教材名「使える言葉にするために」

2 単元の目標

学習した漢字の形・読み・意味を確かめ、語や文の中で使うことができる。文章を読み返し、選んだ漢字が内容に合うかを確かめて表現を直することができる。言葉の働きを確かめ、友達との交流を基に自分の学習を見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①学習した漢字の形・読み・意味を確かめ、語や文の中で使っている。 (〔知識及び技能〕(1)エ)	①「書くこと」において、文章を読み返し、選んだ漢字が内容に合うかを確かめて表現を直している。(B(1)オ)	①学習の見通しをもち、単元で確かめたいことに進んで取り組み、友達の言葉や自分の記録を基に、読み方・表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

意味を知るだけの漢字を、自分の文章で使える語へ変える。例文と自作文を比べ、漢字の意味と使う文脈が合うかを確かめる。学習指導要領のB(1)オを中心に据える。関連する知識・技能として〔知識及び技能〕(1)エを、言語活動の中で確かめる。年間指導計画の重点項目は知識・技能である。本案では、身に付けた知識を文や話の中で使う言語活動に対応する思考・判断・表現の事項も関連付けている。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

児童の既習漢字から使い慣れていない語を選び、辞書の用例の内容を口頭で説明してから別の場面の文を作る。用例の名詞だけを替えず、自分の伝えたい事実を先に決める。おおむね満足できる状況は、文章を読み返し、選んだ漢字が内容に合うかを確かめて表現を直しているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。

5 指導と評価の計画（全1時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本 時）	○既習漢字から使い慣れていない語を選ぶ。辞書の意味と用例の場面を説明する。自分の伝えたい内容で文を作る。相手の受け取った意味と照らして直す。	思①（発言・学習記録）



6 本時の指導 (1/1)

(1) 本時の目標

文章を読み返し、選んだ漢字が内容に合うかを確かめて表現を直すことができる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	使う教材を確かめ、今日比べる言葉や表現への自分の考えを短く書く。 ○「その漢字を使うと、伝えたいことが正確に伝わりますか」 【めあて】意味を知るだけの漢字を、自分の文章で使える語へ変える。 〈予想される児童の反応〉 ・部品が同じ字を探した。	本時に考える対象を確認し、既に分かったことと、今日確かめたいことを分ける。児童の最初の言い方を残し、まとめて比べられるようにする。
展開 (分)	○「その漢字を使うと、伝えたいことが正確に伝わりますか」 既習漢字から使い慣れていない語を選ぶ。辞書の意味と用例の場面を説明する。自分の伝えたい内容で文を作る。相手の受け取った意味と照らして直す。 選んだ漢字の意味、自分で使った文、相手の読みを受けて直した記録。 自分が選んだ言葉とその理由を相手に説明する。聞き手は、意図した意味が伝わった箇所と確かめたい箇所を返す。 〈予想される児童の反応〉 ・部品が同じ字を探した。 ・音で考えたけれど文の意味と合わなかった。 ・答えを一つにするには説明を足す必要がある。	児童の既習漢字から使い慣れていない語を選び、辞書の用例の内容を口頭で説明してから別の場面の文を作る。用例の名詞だけを替えず、自分の伝えたい事実を先に決める。 想定するつまずき：意味を説明できても自分の文章で使えない、辞書の例文を写すだけになる。 児童の考えを教師の想定した言い方にそろえない。理由が確かめられる考えは残し、根拠が異なるときはその違いを板書する。 ◎思① 文章を読み返し、選んだ漢字が内容に合うかを確かめて表現を直している。(発言と学習記録)
まとめ (分)	【まとめ】今日確かめた言葉や表現と、それによって分かったことを対応させて自分の言葉でまとめる。 学習前の考えと比べ、付け加えたこと、残したこと、その理由を記す。 〈予想される児童の反応〉 ・友達の考えを聞いて、自分の理由を詳しく説明できた。 ・答えを一つにするには説明を足す必要がある。	まとめの文を先に与えて写させず、本時に扱った語や自分の例を入れる。書くことが難しい場合は口述を記録する。今後の国語学習や日常の読み書きでも、今日確かめたことを使えるよう記録を残す。 ◎態① (学習前後の記録と、見直した理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

右端に題名と本時のめあて。その左に問い「その漢字を使うと、伝えたいことが正確に伝わりますか」。中央は根拠となる言葉・本文の箇所と、そこから考えたことを上下に対応させる。根拠の本文は先生が教科書から書き入れる。中央から左に児童の考えを並べ、同じところを囲み、違いの理由を線で結ぶ。左端に、本時で確かめた具体的な言葉を含むまとめと、考えを見直した理由を書く欄を置く。縦書きで右から左へ学習の順をたどれるようにする。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

